

私の履歴書

前橋 汀子

⑭

やないか」。彼は50歳の若さで亡くなった。

彼を含め、同級生の多くが

西側に出て活躍した。本当に

よく弾ける人たちがばかりだっ

た。それに引き換え、当時の

私ときたら、左手の押さえ方

を変えて一からやり直しの真

っ最中で、悪戦苦闘の連続。

こんな調子でソリストとして

やっていけるのかしら……。

きて、特に大きな身ぶりも

せず、淡々とオーケストラを

指揮した。

しかし、迫ってくるものは

強烈だった。当時はまだ少し

しか理解していなかったが、

ロシア人の奥の深さが予感と

で涙が止まらなかった。

ある日、バイオリニストの

佐藤陽子さんがレニン

グラードで公演した。

私より6歳年下だが、

モスクワ音楽院に留学

してレオニード・コー

ガンに師事していた。

当時は12歳ぐらいだ

ろう。白いワンピース

に白いソックス、髪に

大きなリボンをつけて

ソリストを務めた陽子

さんは「お人形さん」

の形容がぴったりの愛らし

さ。その演奏は実に素晴らし

かった。真正正銘の天才少女

同級生たち

トになっている。もう一人、クレイメルに匹敵する才能がクラスにいた。

ラトビア出身のフ

イリップ・ヒルシュ

ホルン。クレイメルとは同郷

で仲が良かった。後に2人が

そろって出場した1967年

のエリザベート王妃国際音楽

コンクールでは、ヒルシュホ

高い技術 欧州で活躍

自分のふがいなさ 涙に暮れる

っていたら、米ニューヨーク

のカネギーホール近くのホ

テルで偶然に再会した。72年

のことだ。

あの日、私は部屋でシペリ

ウスのコンチェルトを練習し

ていた。コン、コン。音の苦

情かなと思つてドアを開ける

とフェリックスが立っていた。

「誰が弾いているのかと

フロントに尋ねたら、ティコ、

君が泊まっているっていうじ

ゃないか」。彼は50歳の若さ

で亡くなった。



レニングラードの街角で

「人とは比べてはいけないよ」。斎藤秀雄先生の言葉が

脳裏をよぎる。比べてはいけ

ないと思ひながら、私は自信

をなくし、落ち込んでいった。

あのコンサートに行ったの

はそんな頃のことだった。62

年1月、ムラヴィンスキーの

指揮でチャイコフスキーの交

響曲第6番「悲愴」を聴いた。

端正な顔立ちのムラヴィンス

キーはにこりとせずに出て

きて、特に大きな身ぶりも

せず、淡々とオーケストラを

指揮した。

しかし、迫ってくるものは

強烈だった。当時はまだ少し

しか理解していなかったが、

ロシア人の奥の深さが予感と

で涙が止まらなかった。

ある日、バイオリニストの

佐藤陽子さんがレニン

グラードで公演した。

私より6歳年下だが、

モスクワ音楽院に留学

してレオニード・コー

ガンに師事していた。

当時は12歳ぐらいだ

ろう。白いワンピース

に白いソックス、髪に

大きなリボンをつけて

ソリストを務めた陽子

さんは「お人形さん」

の形容がぴったりの愛らし

さ。その演奏は実に素晴らし

かった。真正正銘の天才少女

だ。「彼女はこんなに弾ける

のに、私は一からやり直し

」。夜更けのバスで、また

涙に暮れた。

(バイオリニスト)